平成 29 年度　全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立武雄小学校

1　児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5 年時	6 年時		5 年時	6 年時	
		A	B		A	B
H25 入学	５７．１			６４．２		
現 5 年	（０．９３）			（０．９８）		
H24 入学	７０．４	７８	６１	７０．３	８４	５２
現 6 年	（１．０７）	（１．０４）	（１．０９）	（１．０５）	（１．０５）	（１．１８）
H29 正答率の全国比		（１．０４）	（１．０６）		（１．０７）	（１．１３）

◎5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率（%）、下段(　　)は、県平均を 1 としての比較。

◎「Ｈ２９正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○　現５年生

・　国語、算数ともに県平均をやや下回っているが、その差は小さく全体で見るとおおむね良好な学力状況といえる。

・　国語の観点別正答率では、「書く」「読む」で県平均を上回り、「話す・聞く」「知識・理解・技能」で下回っている。特に「知識・理解・技能」は 10.8 ポイントの差があり、漢字やローマ字の読み書き、慣用句の意味や国語辞典の使い方についての指導が必要である。

・　算数の観点別正答率では、「考え方」「技能」「知識・理解」の３観点ともにわずかに県平均を下回っている。県との差が大きい問題は、小数の意味と表し方、面積の単位換算、角度であり指導の必要がある。

○　現６年生

・　国語、算数ともに県平均・全国平均を上回り、良好な学力状況である。５年時もよかったので学力を維持できているといえる。特に算数 B は県比・全国比ともに高く、12 月調査以降の取り組みが奏功しているものと考える。

・　国語の観点別正答率では、A の「書く」「読む」「言語についての知識・理解・技能」、B の「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く」「書く」「読む」で県と全国を上回り、唯一 A「話す・聞く」でわずかに下回っている。

・　算数の観点別正答率では、A の「技能」「知識・理解」、B の「数学的な考え方」「知識・理解」と全ての観点で県と全国を上回り、下回った観点はなかった。

○　共通（意識調査）

・　両学年ともに、「学校の授業の復習をしている。」児童の割合が県平均を大きく上回り、特に５年生は 69.5%で県を 44.0 ポイントも上回っている。6 年生は 46.2%で県を 25.8 ポイントも上回っている。これは、家庭学習ノートの習慣が定着していることの表れであると考える。

・　６年生では、予習をしていると回答した児童の割合が県平均の倍以上だった。

・　両学年ともに「授業の中でめあてが示されている。」「ノートにめあてを書いている。」と回答した児童の割合が県平均より高く、めあてを意識した問題解決型の授業が展開されていることが伺える。

2　改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

〇西部型授業を常に意識して授業を実践する。「めあて」から「まとめ」「振り返り」に至る一連の学習過程をどの教科においても基本とする。児童自らが問題解決していく授業を全職員が念頭に置いて授業するように共通理解を図る。

〇書く、話すことに抵抗がなくなるように、その機会を与える授業に努める。表現する機会を児童に日常的に与える。わずかなことでも日々の積み重ねで、少しずつ思考力や表現力が育まれるものである。ペア学習やグループ学習を取り入れ、授業中に何らかの発言をする機会を全員に持たせる。

〇ICT 機器がさらに充実してきているし、夏休み中の職員研修でも機器の扱いについて学んだので、これまでにも増して利活用を推進する。まず、少人数教室にも電子黒板が整備されたことを好機ととらえ、週時程を組んで活用する。また、4 年生の児童用タブレットに電子教科書が入ったのでその活用を図る。さらに、ICT 支援員にも週時程を組み、機器活用の授業への貢献を期待したい。

〇算数科を中心に、TT や少人数指導にこれまで通り取り組む。個別の対応の機会を増やし、授業への意欲を高め、理解度を深める。恵まれた職員の加配を活かして、学級や学年での TT や少人数指導、習熟度別の少人数指導などを、単元や場を考慮して工夫していく。

〇校内でも若手教員への指導は随時行うが、教育事務所にも指導案作成指導等の学校支援を依頼し、経験年数の浅い若手の授業力向上を図る。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

〇学年で家庭学習の質と量を話し合い、学級差が生じないようにする。全校的に取り組んでいる家庭学習ノートについてはこれまで通り継続し、優良ノートを展示して参考にしてもらう。

〇学年通信や学級通信などを通して、家庭学習の充実や学習用具の準備に向けて、保護者との連携を図る。また、個別に連絡をし、家庭学習の習慣が身につくように保護者へ協力を仰ぐ。

〇木・金曜日の朝の時間を利用して国語と算数の学力向上に努める。タブレットの e-ライブラリを活用するとともに、プリントやドリル学習も併用して指導する。

〇木曜放課後の基礎・基本練習。下校指導後の 16:00～16:30 に、４・５・６年生は、基礎・基本の練習問題を解いて、学習内容の定着を図る。

〇第４火曜７校時を利用して活用問題への取り組みをする。学習状況調査の過去問題などを解かせ、解説を加える。慣れなかったり苦手だったりする B 問題への対応力を養う。

〇町の老人クラブによる水曜日の放課後学習会。３・４年生の希望者が参加し、地区の老人クラブの皆さんに学習や読書の様子を見守ってもらう。

〇自己肯定感を高める取り組み。日頃から児童の良さを積極的に評価し、褒めて、自己肯定感を高める。児童玄関のモニターで児童が相互に見つけた「よいところ」「嬉しかったこと」を紹介する。

平成２９年度　全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立御船が丘小学校

１　児童の実態

(1)　学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	５年時	６年時		５年時	６年時	
		A	B		A	B
Ｈ２５入学	59.8			67.8		
現５年	(0.97)			(1.04)		
Ｈ２４入学	65.4	72	56	64.6	77	44
現６年	(0.99)	(0.96)	(1)	(0.96)	(0.96)	(1)
Ｈ２９正答率の全国比		(0.96)	(0.97)		(0.98)	(0.96)

◎　５年時は佐賀県学習状況調査、６年時は全国学習状況調査の推移。

◎　上段は平均正答率（%）、下段(　　)は、県平均を１としての比較。

◎　「Ｈ２９正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2)　学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

《 生活習慣 》

「普段、１日当たり２時間以上、テレビやビデオ・ＤＶＤを見ている」と答えた児童は、５年生が 42.9%(県 50.0%)、６年生が 61.8%(県 56.3%)であった。また、「普段、１日当たり２時間以上、テレビゲームをする」と答えた児童は、５年生が 14.3%(県 23.2%)、６年生が 32.6%(県 28.0%)であった。５・６年生の約半数が、平日に２時間以上のテレビ見ている。６年生はテレビ視聴やゲームの時間が、県平均を上回っている現状にある。

《 学習習慣 》

「学校の授業時間以外に、普段、１日当たり１時間以上、勉強をしている」と答えた児童は、５年生が 72.3%(県 60.4%)、６年生が 85.2%(県 62.5%)であった。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たり２時間以上、勉強をしている」と答えた児童は、５年生が 26.1%(県 23.8%)、６年生が 32.6%(県 21.3%)であった。５・６年生ともに週末の学習習慣の定着が課題になると思われる。

また、家庭学習の内容を見ると、「学校の授業の予習をしている」という問いには、５年生の 37.8%(県 46.7%)、６年生の 36.0%(県 37.8%)が「している」(「どちらかといえばしている」を含む)と答え、「学校の授業の復習をしている」という問いには、５年生の 53.8%(県 58.6%)、６年生の 54.0%(県 51.8%)が「している」(「どちらかといえばしている」を含む)と答えている。現在、校内研究で予習学習を充実させ、児童が見通しをもって授業に臨むことができるような取り組みを行っている。各学年の発達段階に応じた予習学習の在り方について研究を積み重ねているところである。

《 授業での学び方 》

「算数の勉強は好きだ」と思っている児童は、５年生で 72.3%(県 71.3%)、６年生で 51.6%(県 62.8%)であった。「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」と答えた児童が、５年生では 87.4%(県 79.1%)、６年生では 88.3%(県 83.3%)いた。また、「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う」と答えた児童が、５年生で 84.8%(県 82.6%)、６年生で 94.4%(県 85.0%)いた。さらに「算数の授業内容はよく分かる」と思っている児童が、５年生 91.6%(86.3%)、６年生 76.4%(79.5%)だった。「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」児童が、５年生の 63.9%

(県 75.1%)、６年生の 73.0%(県 70.5%)となった。学び合いでの学習スタイルが定着していることが伺える。

《 学習状況調査の結果から 》

６年生の国語Ｂでは、「目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを書く(話す)」問題の正答率が低い。算数Ｂでは、「割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる」問題、及び「身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる」問題の正答率が低い。

５年生の国語では、「メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く」問題、算数では、「示された条件で正三角形ができるということを、円の性質を基に判断し、その理由を説明することができる」問題の正答率が低い。

５・６年生ともに、条件に合わせて文章を書くことを苦手としている。また、算数では割合の学習に課題が見られる。

２　改善に向けた具体的な取組

(1)　授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

１　スマイル(予習)学習による児童の主体的な学びの育成

算数の授業では、スマイル(予習)学習を適宜取り入れ、児童が学習の内容の自分のどの部分が理解できているか、そうでないのかを明確にして授業に臨ませ、学習意欲を高めさせる。学習してきたことを発表するときには、教科書に書かれている文章や資料、図などに立ち戻らせ、根拠や理由を明確にして発表させることで、より正確な表現ができるようにしていく。

２　発展問題を取り入れた授業による数学的な見方･考え方の育成

本時で学習した内容を活用した発展問題に取り組ませることで、数学的な見方・考え方を働かせることができるような授業づくりをする。発展問題の内容は単に難易度を上げるというのではなく、数学的な見方･考え方を働かせることができるような問題にする。そのために、教師が児童にどのような見方を身につけさせ、考えさせるのかを明確にし、それにふさわしい問題を選ぶようにする。

３　言語活動の充実による思考力･表現力の育成

自分の考えを図・式・言葉などで整理して表現することができるよう、算数用語などを適宜提示していく。また、教師がモデルを示したり、的確に表現できた児童を賞賛したりすることで表現する方法を身につけさせていく。学び合いでは、友だちの考えをきちんと聞くこと、分からないことを伝えたり、できるところまでを発表したりすること、式や図などと関連づけて発表することなど、教師の指導の手立てを明確にしておく。また、授業のまとめを書かせる際に、字数の制限や使うキーワードを指定するなどの条件を与えることで、表現するための技能を身につけさせていく。

(2)　(授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

１　学力向上対策研修会の実施

全国学力調査・県学習状況調査・標準学力検査の結果を分析・考察した。特に正答率が悪かった問題について重点的に分析していくことで本校の課題を明確にしていった。改善策について話し合い、その結果を全職員で共通認識し、全学年が系統的に指導していくように共通理解を図りながら、学習習慣の定着や指導法の改善・充実に努めていく。

２　学力向上タイムの実施

木曜日の７校時目に計画しているクラブ･委員会を実施しない時間を利用し、４年生以上に月に１～２回程度の学力向上タイムを設定する。ここでは、本校の課題となっている活用力や思考力、表現力の向上を図

るために、学力調査の過去問等を中心に取り組ませ、問題の解説や条件つき解答の仕方の説明などを行うことで解き方に慣れさせていくとともに、課題の克服に努める。担任だけではなく、級外とともに複数の職員で行うことで学力の定着を図る。

３　朝の（特設の）時間の充実

朝のスキルタイム（計算）問題を見直し、基礎的･基本的学力の更なる定着を図る。算数音読で取り組む内容を学年毎にカードにし、算数科の学習で必要な用語などを確実に身につけさせていく。

平成 29 年度　全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立朝日小学校

1　児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5 年時	6 年時		5 年時	6 年時	
		A	B		A	B
H25 入学	61.9			64.9		
現 5 年	(1.01)			(0.99)		
H24 入学	63.5	73.0	51.0	62.1	74.0	44.0
現 6 年	(0.96)	(0.97)	(0.91)	(0.93)	(0.92)	(1.00)
H29 正答率の全国比		(0.98)	(0.89)		(0.94)	(0.96)

◎5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率（%)、下段(　　)は、県平均を 1 としての比較。

◎「Ｈ２９正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・５年生は、国語･算数ともにほぼ県平均並の結果であった。

・６年生は、算数Ｂ問題は県平均と同一点数。それ以外は、県平均を下回っていた。

・６年生は、国語Ｂ問題(活用)、算数Ａ問題(基礎･基本)に課題がある。

【国語に関して】

・５年国語では、「話す･聞く」「読む」「漢字の読み･書き」に関しては県平均を上回っていた。全体として基本的な知識や技能は習得できている。

・5 年国語は記述式においても正答率は県平均を上回っており、また無回答率も低いことから活用力がついてきている。

・６年国語では、全観点において全国平均、県平均を下回った。特に「関心･意欲」の低さが国語全体の学力の低さにつながっていると言える。

【算数に関して】

・５年算数に関しては、Ａ問題が県平均に対して 0.92 だが、Ｂ問題は 1.00 と県平均に達しており、基礎的なＡ問題より活用的なＢ問題の結果がよかった。このことから、表現力の育成を目指し取り組んできた成果が表れてきていると言える。

・6 年算数では、Ａ問題・Ｂ問題ともに全国平均と比較して、全 24 問中 14 問で無回答率が低かった。また、昨年度の課題であった無回答率は大幅に改善したことはよい傾向であり、自分の考えを何とかして導き出そうと頑張ったことがうかがえる。６年生も表現力が少しずつ身についてきていると言える。

【意識調査に関して】

・５、6 年ともに宿題は忘れずにしてくる児童の割合は高い。

・「算数の学習は大切だ」と考えている児童の割合が高い。

・学校の学習時間以外に、平日、また土日の学習時間が少ない傾向にある。

・1 日の学習時間が県平均に比べて少ない児童の割合が高い。
・「自分には、よいところがある」の設問で「そう思う」と答えた児童の割合は高いが、逆に「そう思わない」と答えた児童の割合も高く、意識が二極化していることが分かる。自己肯定感・自己有用感が低い子ども達に自信を付けさせることが課題である。

2　改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・学習においては「めあて」「まとめ」「ふり返り」の流れで学習を進めることが定着している。しかし、学習の進め方のとらえ方について、まだまだ教師と児童の意識のずれが見受けられる。そのため、特に「まとめ」「振り返り」は、教師と児童がともに作り上げていくようにする。
・算数科では、自力解決で自分の考えを書き表したり、自分の考えを相手に伝えたりする表現力が育ってきつつある。しかし、まだまだ個人差があり課題である。自力解決では、全員が自分の考えをしっかり持つことができるよう、授業の「導入」「見通し」の工夫を続けていく。
・学び合い活動の充実を図る。自分の考えが間違っていても安心して述べられるようにクラスの支持的風土を作りながら進めていく。

(2)　(授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

・本校はこれまで、静かに集中して学ぼうとする態度が不足していた。そこで、一日の生活の中に２度の「静の時間」を全校一斉にもつことにより、静かに集中して学ぶ習慣をつけさる。
・家庭学習で毎日の宿題に出す「漢字」「計算」「音読」の提出率はおおむね良好であるので、今後も声かけを行い、提出率 100%を目指す。
・昨年度の途中から、算数を中心に授業で学習したノートの視写を宿題に出しているが、定着してきた。また内容も充実してきている。しかしまだ十分とは言えない児童もおり、全ての児童の内容の充実を図っていく。教員はさらに充実した板書を心がける。
・読書に関しては、関心が高い児童が多く、今の状況を維持していく。読書の習慣がついていない児童もいるため、習慣化を目指していく。
・自己肯定感が低い児童が多いので、それぞれの児童が活躍できる場を設定し自己有用感を高めるなど、授業改善を図っていく。
・条件作文など過去の調査問題等を活用した復習をするなど、期間を設定し集中的に取り組ませることで、条件に合わせた回答の仕方について指導する。
・家庭学習時間が、国や県平均と比べて少ないので、学級・学年懇談会や地区懇談会などの折に知らせたり、通信を出したりして啓発を図る。また子ども達にも家庭学習の大切さを伝え家庭学習の時間を増やすように指導する。

平成 29 年度　全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立若木小学校

1　児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5 年時	6 年時		5 年時	6 年時	
		A	B		A	B
H25 入学	５９．２			６６．７		
現 5 年	（ 0.96 ）			（ 1.02 ）		
H24 入学	６２．３	６６	４４	７１．４	７０	４１
現 6 年	（ 0.94 ）	（ 0.88 ）	（ 0.79 ）	（ 1.06 ）	（ 0.88 ）	（ 0.93 ）
H29 正答率の全国比		（ 0.88 ）	（ 0.77 ）		（ 0.89 ）	（ 0.89 ）

◎5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率（%）、下段(　　)は、県平均を１としての比較。

◎「Ｈ２９正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

1　学習状況調査の結果から

６年生の全国学習状況調査の結果では、国語科と算数科のＡ問題（主として知識）Ｂ問題（主として活用）ともに県平均や全国平均を下回っていた。特に、国語科のＢ問題において差が大きかった。一方算数科の県や全国との比較では、Ａ問題（0.88）に対し、Ｂ問題（0.93）とＢ問題の方が高い傾向にあり、既習の知識を働かせて問題解決を行う力が以前より高まっていた。

領域別に見ると、国語科では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に課題が見られ、「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う。」や「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。」「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む。」などの正答率が低く、「目的や意図に応じて」という点に意識した指導がさらに必要である。算数科では、「数と計算」や「数量関係」の内容で課題が見られた。計算のやり方や答えの出し方など技能については良かったものの、「乗法の問題場面を数直線で表すこと」また、「任意単位を用いての測定」「未知の数量を□を用いて、問題場面を式で表すこと」などで正答率が低かった。

５年生の県学習状況調査の結果では、算数科では県平均を若干超えているものの、国語科では県平均をやや下回っていた。どちらも県平均との差は小さく、ほぼ県と同程度と考えられる。国語科の内容で見ると、「話す・聞く」「書く」領域では、県よりもやや高かったものの「漢字の書き」や「語句に関する知識」など「言語に関する知識・理解・技能」がやや正答率が低かった。

2　意識調査の結果から

意識調査の結果では、県平均に比べ「決まった時刻に起きる、寝る」「朝食を食べる」等が高かった。また、地区の行事に進んで参加する児童は、５・６年ともにほぼ１００％に近く、「人の役に立つ人間になりたい。」や「困っている人を助けたい。」と思っている児童の割合も高い。「自分には良いところがある。」や「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある。」も高く、成就感や自己肯定感を感じている児童が多い。

学習では、塾や習い事が少ないため学習時間は県と比べてあまり長くはない。また復習中心で、予習の比率が少ない。

2　改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1「西部型授業」を基本にしながら、主体的な問題解決学習に取り組ませる。

「西部型授業」の流れにそいながら、授業作りを行う。特に次の点に留意する。

①　「めあて」の提示　②ノート指導・ワークシートの工夫（書く場の保障）　④話し合い活動

⑤「まとめ・振り返り」の設定

国語科や算数科、他の教科においても、自分の考えを書く活動を積極的に取り入れ書く力の育成を図る。また、書く活動において自分の考えをしっかりと持たせ、それを発表に生かしながら一人ひとりの話す力を高めグループや全体の場での協働的な学習を充実させながら「話す・聞く」態度の育成を図る。

2　学習の展開や、発問・板書等の工夫をし、授業に臨む。

【国語科】・・・単元のねらいを明確にした指導。単元に設定されている言語活動を確実に実施する。学習用語の習得と活用を図り、国語科における基礎・基本の力を身につけさせる。「読み」に課題が見られたので、特に説明文の読みの指導に力を入れ、話の中心を読み取ったり、大事なことをまとめて書いたりする力を身につけさせる。

【算数科】・・・　「わかる」と「できる」をしっかりつなげていく。答えを出すまでの過程を大切にし、図や表や式、言葉での説明力を高める。

既習事項を活用した自力解決力を大切にし、活用力を高める。

3　学んだ事を活用する場を作り出し、活用力を高める。

総合的な学習の中で、国語科や算数科で培った技能を意図的、計画的に活用させる。調べたことをまとめる際にはグラフや図表を活用させたり、多様な文章表現に慣れさせるため手紙、新聞、チラシ等に取り組ませたりする。

(2)　（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

1　パワーアップ課題

活用力育成のために、発展的な問題や活用問題を週末の家庭学習の課題とする。（４・５・６年）

１回に１問程度を課題とし、しっかり考えさせる。その後、解き方や答え方について指導する。

2　家庭学習の習慣化や内容の充実を家庭と連携して取り組む。

①課題（読み、書き、計算）について職員間で共通理解を図る。

②日記など多様な書く活動の場を設定し、充実を図る。

③自主学習の奨励（週１回以上の取組）をする。

④タブレット（スマイル学習・ｅライブラリ）を利活用する。

3　学習のルールについて職員が共通理解し、学習への心構えや物構えについて全校で一貫した学業指導を行う。（チャイムの合図。筆箱の中味、姿勢、話型、聴型）

4　生活リズムについて調査し、起床・就寝時間、朝ご飯などの生活習慣のチェックを家庭と協力して行い、よりよい生活習慣を身につけさせる。

全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立武内小学校

1　児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H25入学	70.1			73.8		
現5年	(1.14)			(1.13)		
H24入学	65.8	67.9	61.3	61.8	74.6	48.1
現6年	(1.06)	(0.94)	(1.08)	(0.95)	(0.96)	(1.04)
H29正答率の全国比		(0.93)	(1.06)		(0.96)	(1.02)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は、県平均を1としての比較。

◎「H29正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○５年は、国語、算数とも県平均を大きく上回り、良好な結果である。国語においては、漢字やローマ字の読み書きや主語・述語の理解が優れている。日ごろから、学習規律が良くできている集団であり、また、前向きに頑張ろうとする意欲の結果だと考える。また、新聞づくりなど言語活動を取り入れた授業を多く経験していることで、書く領域は、県平均より１．２２と大きく上回り、記述式の問題や活用に関する問題の正答率が高く、指導の成果が表れている。算数においては、数学的な考え方の領域において、「十分達成」にほぼ到達できている。基礎基本である知識理解及び計算は毎日の授業の積み重ねと毎朝行っている、花まるタイムの効果だと考えられる。小問ごとに分析すると、3年生の時に学習した内容を忘れている児童がいたので、時々、下学年の問題を復習し、定着させていく。

○６年は、国語Ａ・算数Ａは、全国平均を下回っているが、国語Ｂ・算数Ｂは、全国平均を上回っている。選択問題より記述式の問題の正答率が高い。

国語においては、領域別に見ると、Ａ・Ｂともに「話すこと・聞くこと」が、Ｂは「書くこと」が全国平均を上回っており、目的や意図に応じて書く事柄を整理したり、収集した情報を関係づけながら話し合ったり、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する力に伸びが見られる。また、目的や意図に応じて、分かったことや自分の考えを書く力にも伸びが見られる。一方、「知識・理解・技能」と「読むこと」に、課題が見られる。漢字やローマ字の読み書き、複数の資料を比較しながら読むことの正答率が低く、ローマ字においては無解答率も高い。

算数Ａでは、小数の計算や割合に関する問題の理解が低い。算数Ｂでは、式や式の中の数値の意味を解釈することに課題が残った。領域別に見ると、「考え方」が「おおむね達成」に到達できず、課題が見られる。

○意識調査では、５・６年ともに、ほぼ９割以上の児童が「友達に会うのは楽しい」と答えている。また、将来の夢や目標を持っていると答えた児童も９割を超えている。地域の行事に参加している児童もほぼ１００％に近い。これらの質問項目は、県平均を上回っているよい結果であった。また、昨年度に比べ、ゲームをする時間が１時間より少ない児童の割合や携帯電話やスマートフォンを持っていない児童の割合が県・全国平均を上回るなど家庭の支援や協力が伺えた。しかし、読書の習慣については、6年生は、平日の読書量及び読書の機会が県・全国平均を下回るなど、課題が残った。

2　改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1　児童に主体的に学習にのぞむ姿勢をもたせるために、児童とつくりあげる「めあて」や「まとめ」の設定を意識した授業づくりを推進する。

2　授業中に考えたことを説明したり、伝え合ったりする時間（友だちタイム）を積極的に入れていく。論点がずれないように、何のために話し合っているのか、時々「めあて」に返ることも意識する。

3　授業の始めか終わりを５分を「定着タイム」とし、児童が苦手としている内容や既習事項の反復学習の時間を設け、基礎的・基本的な知識の定着を図る。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

1　全校放送に合わせて立腰を実施したり、学習の規律を徹底させたりして、落ち着いた雰囲気の中で学習できるよう、環境づくりに努める。

2　朝の時間に、全校統一して「花まるタイム」を設定し、全力で取り組ませることで、学習の基盤となる集中力や言語力、計算力、空間認識力等の向上を図る。

3　家庭学習については、全職員で共通理解を図り、発達段階に応じた学習時間を確保させる。内容や量については、ICT 機器やドリル、プリント等を活用し、個別に補充指導をとりながら、基礎的・基本的な知識の定着を図る。調査の設問別到達状況において習得できていない内容や児童が苦手としている内容についても、日頃から繰り返し復習させていく。

　また、現在取り組んでいる思考力向上をねらった週末課題については、基礎・基本の復習問題を加えるなど、内容の改善を図り、発展的な学習と基礎・基本の両面からの習得をねらった取り組みを実施する。

4　ローマ字や漢字については、端末へのローマ字入力やミニテスト等の学習端末での実施により定着を図る。

5　児童に、今回の調査結果に見られる成果と課題を知らせ、学力向上に向けて、今後どんなことに気をつけて学習に取り組めばよいか、自分たちの言葉で振り返りをさせる。

平成２９年度　全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果の公表

武雄市立西川登小学校

1　児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5 年時	6 年時		5 年時	6 年時	
		A	B		A	B
H25 入学	64			78		
現 5 年	(1.04)			(1.19)		
H24 入学	66.7	68	39	65.8	69	35
現 6 年	(1.01)	(0.9)	(0.7)	(0.98)	(0.86)	(0.8)
H29 正答率の全国比		(0.9)	(0.68)		(0.88)	(0.76)

◎5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率（%）、下段(　　)は、県平均を１としての比較。

◎「Ｈ２９正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○５年生の正答率は国語、算数共に県平均を上回った。特に、国語「書く」、算数「技能」では、大きく上回っていた。一方、課題が見られた観点は、国語「話す・聞く」である。

○６年生の正答率は国語 A･B、算数 A･B で県、全国平均を下回った。課題が見られた観点は、国語「話す・聞く」、算数「考え方」である。

○児童質問紙より

・毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。西川登小 71.4%、佐賀県 59.7%、全国 58.9%

・授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしますか。西川登小 52.4%、佐賀県 38.8%、全国 38.2%

・家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか。西川登小 66.7%、佐賀県 46.4%、全国 50.6%

・家の人(兄弟姉妹を除く)は、授業参観や運動会などの学校後行事に来ますか。西川登小 95.2%、佐賀県 71.9%、全国 81.5%

・家で、自分で計画を立てて勉強しますか。西川登小 47.6%、佐賀県 29.4%、全国 30.0%

・今住んでいる地域の行事に参加していますか。西川登小 81.0%、佐賀県 46.3%、全国 35.0%

・学校のきまりを守っていますか。西川登小 66.7%、佐賀県 49.8%、全国 46.4%

上記のことより、学校で学んだことなどを家庭や地域の中で、児童は生かしている面が大きい。また、学校そのものも地域とのつながり深いことが分かる。その一方で、自分の考えを持ったり、失敗を恐れずに挑戦することは、県や全国より低くなっている。これまでの取組を生かし、家庭や地域との連携を深め、豊かな子心をもった児童の育成に努めるとともに、主体的な活動の場の設定に努めていきたい。

２　改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

１　全学年で縦のつながりを重視した指導法

・西部型指導法を全学年、全教科で基本的に実施することで、児童に学び方の習得をねらう。

・校内研究の研究科主題である「自分の考えをもち、思考を拡げる指導法」を授業の話し合い活動の中で実践していく。

２　児童の表現活動を重視した指導法

・XShink などの ICT を利活用して、児童に自分の意見を表現する場の設定に努める。

・児童が自分の考えを表現する手立てとして、式、文、図、学習用語を使った書き表した方，話型を使った表現方法を適宜指導していく。

３　教科における具体的な指導法

・板書を全校で統一し、授業の流れがノートに残る板書を心がける。

・国語での内容理解や算数での問題把握の場面などでは、文章構成やキーワードに着目させる指導を行う。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

１　学力向上対策研修会の実施

夏季休業中、全国学力調査・県学習状況調査・標準学力検査の結果分析から、本校の課題を洗い出す。その後、改善策について話し合った結果を全職員で以下の実践項目について共通理解し共通実践につなげる。

・朝の読書時間の充実に努め、読書量を増やすこと、読書の読む領域の幅を拡げる声かけを行う。

・朝の「花まるタイム」を生かし、制限時間内に集中して、多くの問題に取り組ませる。

・家庭学習の定着・充実のために、自主学習の頒布に努める。

学力向上コーディネータは、定期的に学習習慣の定着や指導法の工夫・改善についての取組状況の把握に努める。

２　家庭学習の充実

日々の家庭学習について家庭と連携し学習習慣の定着を図る。日記への取組も併せて行う。また、自主学習については、より主体的な取組を促すよう、よい内容のものを学年掲示コーナーで紹介したり、全校全体でとして各学年の取組の「ノート展」を開いたりする。

家庭学習の手引きを見直し、学習の時間（目安)、自主学習の例を学年ごとに決め、各家庭に配布する。

３　放課後指導

・高学年を中心に、帰りの会後、小テストや補充指導を行う。

平成 29 年度　全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立東川登小学校

1　児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5 年時	6 年時		5 年時	6 年時	
		A	B		A	B
H25 入学	46.4			52.3		
現 5 年	(0.75)			(0.8)		
H24 入学	63.6	74	47	56.8	66	43
現 6 年	(0.96)	(0.99)	(0.84)	(0.85)	(0.83)	(0.98)
H29 正答率の全国比		(0.99)	(0.82)		(0.84)	(0.94)

◎5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率（%）、下段(　　)は、県平均を１としての比較。

◎「Ｈ２９正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

・5 年生も 6 年生も、県の平均を下回る結果となった。６年生の国語Ａ,算数Ｂはほぼ県平均と同じであったが、国語Ｂ、算数Ａ、５年生の国語、算数について県を下回る。

・特に５年生の学力の底上げが必要である。

・国語では文章の内容を読み取る力、文章を書く力が弱い。

・算数の計算問題は比較的できているが、思考を伴う問題の正答率が低い。

・活用力、応用力が弱く、学びを活かせていない。

･意識調査によると特に、「学校の授業時間以外に、一日あたりどれくらい勉強しますか？」「学校が休みの日にどれくらい勉強しますか？」「家で予習・復習をしていますか？」といった、家庭学習に関するグラフを見ると、全国や県と比較して、家庭での学習時間が短く、宿題以外の学習をほとんどやっていないことがわかる。

・「課題に対して自ら考え・自分から取り組んだか？」「算数の解き方が分からないとき、諦めずにいろいろな方法を考えるか？」「自分で計画を立てて学習しているか？」などの数値が低く、自主性や学習に対する意欲などが高くないことがわかる。

・「地域の行事に参加していますか？」には、「参加している」割合が全国や県と比べて多く、地域との結びつきが強く、いろいろな行事に積極的に参加している様子がうかがえる。

２　改善に向けた具体的な取組

⑴授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

（１）活用力をつけるための時間を設定する。

①２週間に１時間(水曜日の１時間目)に設定。（９月～１月までの間に合計１０時間の予定)

②問題文自体が複雑な問題、答えの条件がある問題、資料から読み取る問題などをじっくりと時間をかけて自力で解いていく時間にする。

③児童の意欲を継続させるために、パズルの問題なども取り入れながら、難しい問題に挑戦する楽しさを感じられるよう工夫する。

（２）学習課題や発問など、思考させる授業の工夫を行っていく。

（３）絵や図をかいて考える力、言葉や文章で説明する力をつけていく。

（４）表やグラフを読む力、複数の資料を関連させて読む力、数字の裏を類推する力を。

（５）授業の中で、類題を解く時間を確保し、定着を図る。

⑵　（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

（１）花まるタイムにより、基礎的な計算力、図形の力などがついているので、継続して指導をする。

（２）学年に応じた内容の本や文章、少しレベルの高い内容の本･文章などにもっと触れさせる。

（３）家庭と協力して家庭学習の充実を図る。(宿題以外の学習や休みの日の学習にも力を入れていく。)

平成 29 年度　全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立橘小学校

1　児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5 年時	6 年時		5 年時	6 年時	
		A	B		A	B
H25 入学	57.0			64.0		
現 5 年	(0.93)			(0.98)		
H24 入学	70.1	76	56	70.1	84	44
現 6 年	(1.06)	(1.01)	(1.00)	(1.04)	(1.05)	(1.00)
H29 正答率の全国比		(1.02)	(0.97)		(1.07)	(0.96)

◎5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率（%）、下段(　　)は、県平均を１としての比較。

◎「Ｈ２９正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

・国語科では、「漢字を正しく書く」「手紙の構成を理解し、後付けを書く」「場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す」「目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く」の正答率が低い。漢字の書き取りの繰り返し学習など、基礎基本の学習の定着が必要とされる。また、手紙の後付けの日付、署名、宛名の位置を正しく理解させること、２つの資料の内容を正しく捉えさせ、スピーチとしてふさわしい言葉遣いで書かせること、与えられた資料の内容を正しく読み取り、指定された文字数など、必要な条件に合わせて書かせることなどの定着を図る必要がある。

・算数科では、「数量の関係を数直線に表す」「重さ、長さについて任意単位を基に比較する」「数と数の関係に着目して、問題場面に適用する」「数の意味を表と関連付けながら正しく理解する」の正答率が低い。２つの量の関係を数直線と対応させて説明させること、任意単位による測定の意味について理解させること、問題場面から数の関係のきまりを読み取り、適用させること、表や式など複数の資料から必要な数を取り出して、式の意味を理解させることなど指導が必要である。

【意識調査】

・国語科で「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書く」と回答した児童の割合が高い。今後も、考えと理由付けを関連させながら学習を進めていきたい。しかし、「意見など発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫する」と回答した児童の割合は低い。考えや意見を発表する際は、内容や順序など構成を考えさせること、発表の機会を増やすことの指導が必要である。

・算数科で「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と回答した児童の割合が高い。今後も、問題と式の意味と関連させながら考えさせていきたい。しかし、「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」と回答した児童の割合はやや低い。問題に取り組ませるときは、見通しをしっかりもたせることなど、自力解決に向けた活動を充実させる指導が必要である。

２　改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

１　共通した授業展開

・授業において、「めあて」「言語活動」「まとめ」「ふりかえり」を大切にした学習指導を行う。

・「めあて」に対する自分の考えを確実にノートに書かせ、ペアや全体で考えを説明したり、伝え合ったりする場を設定する。

・児童が考えを交流する場において、深まりや広がりが見られるための課題提示や発問を工夫する。

２　ICT 利活用

・タブレットや電子黒板など、ICT 機器を活用し、児童の興味関心を高めたり、思考を助けたりするなど、指導法方法の改善や向上に努める。

３　校内研究

・算数科を中心に全員がグループ学年や全体での研究授業を実施し、互いに学び合い考えを深めるための手立てを工夫した授業づくりを行う。

・学習規律の徹底、授業と家庭学習の連携について、協働体制を図り教師の授業力の向上をめざす。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

１　朝や放課後の時間における継続的な取り組み

・基礎基本の学習内容の定着や集中力の育成を図るために、週に４回、朝の時間に「花まるタイム」の時間を設定している。内容は音読、図形、計算、視写の活動を１５分間で行う。

・５、６年で火曜日の放課後に 20 分間の「パワーアップタイム」を設定し、思考を伴う活用問題を中心に取り組ませる。

２　学習規律の確立

・「学習用具」「ノートの書き方」「発表の仕方」等を全職員で共通理解し指導の統一を図る。

・筆箱、下敷きなど筆記用具の準備について、低・中・高学年ごとに「学習用具の約束」を家庭向けに発行し、家庭と学校との連携を図るようにする。

３　家庭学習の充実

・家庭学習について、「統一した宿題」と「学年の実態に合わせた自主学習」を全学年共通理解して取り組ませる。

・自主学習の意味やねらい、進め方、学習内容を提示した「自主学習のてびき」を低・中・高学年向けに発行し、家庭と連携して学習に取り組ませる。

４　読書活動の推進

・お話ボランティアによる読み聞かせや、各学年に応じたお薦めの本の紹介など、読書の推進を図り、年間の貸し出し数が児童一人当たり 100 冊以上になることをめざす。

・ノーテレビデー・ノーゲームデーを月１回設定し、「家読」への取組を呼びかける。

平成 29 年度　全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立山内東小学校

1　児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5 年時	6 年時		5 年時	6 年時	
		A	B		A	B
H25 入学	６１．９			６７．４		
現 5 年	（１．０１）			（１．０３）		
H24 入学	６３．３	７５	５４	６５．９	８１	５０
現 6 年	（０．９６）	（１．００）	（０．９６）	（０．９８）	（１．０１）	（１．１４）
H29 正答率の全国比		（１．００）	（０．９４）		（１．０３）	（１．０８）

◎5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率（%）、下段(　　)は、県平均を１としての比較。

◎「Ｈ２９正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

・国語科では、漢字の読みがよく身についている。

・国語科では、「読む」「書く」の領域に課題が残り、自分の考えを他の人に説明したり、条件に合わせて文章に書いたりすることが苦手である。

・算数科では、「技能」の領域はよく身についている。「考え方」や「知識・理解」「活用問題」の領域についても少しずつ伸びが見られる。

・算数科では、示された式や求めた数値の意味を解釈し、説明する力が不十分である。また、図形の領域についても課題が残る。

・上位児童と下位児童の二極化が進んでいる。

【意識調査】

・基本的な生活習慣（「早寝・早起き・朝ご飯」など）は、大半の児童が定着している。その一方で、午後１０時以降に就寝する児童が３８．６％と増え、就寝時間が遅くなってきている。

・学校の図書室を利用して、本を読む児童が多い。読書が好きな児童も７５．６％と多い。

・地域の行事に参加する児童が８６．５％と多い。

・自分にはよいところがあると思えない児童が３７．８％、先生は自分のよさを認めてくれていると思えない児童が２７％いて、県や全国平均に比べやや高い。

・土日の家庭学習の時間が１時間以下という児童が４５．９％いる。家庭で、授業の復習をしたり、自分で計画を立てたりして家庭学習に取り組む児童が少ない。

・平日のテレビやビデオＤＶＤを２時間以上見る児童が５６．７％、テレビゲームや携帯電話スマホでゲームを２時間以上する児童２４．３％、メールやインターネット２時間以上する児童が１６．２％いて、県や全国平均に比べやや高い。

２　改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

○「学び合い」を取り入れ、子どもがわかる、授業づくりに努める。
・「授業ステップ１・２・３」を活用し、「めあて」「まとめ」「書く活動」「話し合う活動」「振り返り」の５つを意識した授業を継続実践し、児童の学力向上に努める。
・児童が考えたり、学び合ったりすることが楽しくなるような課題設定や活動設定を工夫した授業づくりを今後も継続して取り組んでいく。
・ペア学習の時には、「さし棒」を使って、自分の考えを相手に説明できるようにする。
・学習用具の準備を整えさせ、授業規律（返事と反応）を定着させる。
○自分の考えや意見を的確に「表現する」ことができるようにする。
・書く活動では、いくつかの条件を与え、資料や情報を選択し、内容を読み取って自分の考えを書く学習を意図的に授業の中に取り入れていく。
・友達の考えを受けて、自分の考えを発表できるように、話の聞き方や発表の仕方を再度徹底する。
○指導体制、指導方法の工夫を図り、基礎基本の定着を図る。
・学年の実態や単元の特性に応じたＴＴ指導、少人数指導（等質・習熟度別）、個別指導などを積極的に取り入れる。
・ＩＣＴ機器（タブレット、電子黒板等）を活用し、児童の関心・意欲を高め、理解を促す。
・職員は、児童の「がんばり」や「できた」ことをスモールステップで評価・賞賛したり、児童の活動したことを価値づけしたりしながら、みんなの役に立っていることを知らせ、児童の自己肯定感を高めていく。

(2)　（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

○家庭学習の充実を図り、児童によりよい生活習慣や学習習慣を身につけさせる。
・「学校だより」「八束穂」（学習部だより）を定期的に発行し、地域、保護者との連携を図る。
・「親子ふれあいデー」を中学校のテスト期間と重ね、兄弟揃って落ち着いた学習ができる環境を作る。また、やまびこカード（基本的生活習慣チェックカード）の記入を通して、自分の生活を振り返らせながら支援する。
・１年生３０分、２年生４０分、３・４年生６０分、５・６年生９０分の家庭学習の目標時間を設定し、宿題、自学、読書等に取り組ませる。
・全学年で「自学ノート」を作成し、自主学習に意欲的に取り組むことができるようにする。大枠の内容等を決め、級外を含めた全職員でサポートする。
○朝の時間のスキルタイムの充実を図り、基礎基本の定着を図る。
・５分間の朝読書、１分間の立腰タイム、あいうべ体操、２分間の音読タイムを毎日位置づける。
・週４の算数科スキルタイムのうち、１回を国語科スキルタイムに変更し、「読む」「書き」の領域に関する基礎基本の定着を図る。また管理職や級外を学年毎に位置づけし、児童の学習支援にあたる。
○地域人材を活用した学習を進め、「ふるさと山内」を大切に想える児童を育てる。
・地域で活躍する団体や人材をゲストティチャーとして招き、様々な体験学習をしたり、お話を聞いたり指導を受けたりしながら、専門的な知識や技能に触れることで豊かな情操を培う。
・１１月に４～６年生の４教科復習週間を設け、学習ボランティアとして、保護者、地域の方々に児童の学習支援を依頼する。

全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立山内西小学校

1　児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5 年時	6 年時		5 年時	6 年時	
		A	B		A	B
H25 入学	59.5			60.0		
現 5 年	(0.97)			(0.92)		
H24 入学	55.8	69.0	57.0	54.2	70.0	34.0
現 6 年	(0.84)	(0.92)	(1.02)	(0.81)	(0.88)	(0.77)
H29 正答率の全国比		(0.92)	(0.99)		(0.89)	(0.74)

◎5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は、県平均を 1 としての比較。

◎「Ｈ２９正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2)学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

＜学習状況調査から読み取れる実態＞

◇5・6 年共に、「この問題で何が問われているのか。」「何が必要な条件なのか。」がとらえきれなかったり、条件に応じた解答ができなかったりする児童が多い。

◇5 年は，国語・算数ともに，県平均を下回っている。国語は，「読む」力が最も不足しており、「叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える」「目的に応じて中心となる語を捉える」が県正答率に対して大きく下回っている。また、「話す・聞く」の「司会の役割を理解し、話し合いを進める」や、「書く」の「メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く」も低い。算数は、問題によって県正答率を上回るものも見られるが、基本的な「知識・理解」の力が不足しているため、全体的に低い結果となっている。

◇6 年は，国語が大きく伸びてきているものの、国語・算数ともに全国に比べて低く、特に算数は B 問題が全国平均より大きく下回っている。算数は、基本的な「知識・理解」の力が不足し、全体的に低い結果となっている。国語は、A 問題については、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」が全国正答率を大きく下回っているが、B 問題については全国並みの結果を出し、伸びている。活用問題にも積極的に取り組んできた成果が出ていると考えられる。

＜意識調査から読み取れる実態＞

◇5・6 年共に，「将来の夢や目標をもっている」「学校に行くのが楽しい」「算数は将来役に立つ」「国語の勉強が好き」とする児童の割合が高く，意欲をもって学校生活を送っていることがわかる。また、学校内外で読書に親しみ、図書館利用の割合も高い。地域の行事への参加率も高く、地域とのつながりも深い。家庭学習については、5・6 年共に「宿題を必ずする」児童が多く、出された課題はきちんと取り組んでいる。しかし、「自分で計画を立てて勉強をしている」児童の割合は、5 年は県に比べて高いのに対し、6 年は低く、学習に対する意識に課題が見られる。ゲームや携帯・スマートフォンの使用時間は個人差が大きく、長時間使用の児童の割合が県に比べて多いことが課題である。

２　改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

①基礎基本の習得のための工夫

・国語・算数科を中心として，全職員で共通理解を図りながら指導方法や指導体制の工夫改善を行い，ＴＴ及び少人数による習熟度別学習の充実を図る。

・全教育活動で「話す、聞く、読む、書く」活動を意識し、言語活動を充実させる授業づくりを実践する。

・西部型授業を行い、「授業づくりのステップ１・２・３」や授業改善チェックリストを活用することで、日々の授業を教師自身が振り返る機会を多くし、より質の高い授業を行う。

②活用力の向上のための工夫

・全ての授業において、目的や条件をふまえて、考えを整理しまとめる時間や考えを交流する場を確保し、「考えることを楽しむ授業」「学び合う授業」づくりを行い、思考力・判断力・表現力を高める。

・既習事項を確認したり、活用したりする機会を多く取り入れ、児童が学んだ喜びや有用性を感じることができるようにする。

③望ましい学習習慣・態度の育成の工夫

・立腰教育を基盤にして学習規律の定着を図り、気持ちのよい「返事」「挨拶」「言葉遣い」「話を聴く姿勢」を全職員で徹底させる。

(2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・朝の時間は，（月）音読タイム，（火）やる気タイム，（木①）漢字タイム，（木②④・金）計算タイムの目的や実施計画を共通理解し，実施した結果を情報交換することによって，基礎的な学力が向上するように改善を加えていく。

・週３回 30 分間の放課後の「やる気タイム」は，級外による学年担当を配置し，全職員で個別学習を行っていくことを継続する。また，学力向上強化月間（７・８月，１１月，２月）では，保護者や地域の方に学習ボランティアとして多くの方に丸つけに来ていただくことで，児童の意欲をさらに高めたり，個別指導が充実したりするように行う。

・操作活動を重視した算数コーナーを設け、量感や図形の感覚を育成する。

・児童の学力に応じた宿題の出し方を工夫し、テーマや条件を設定した作文や日記を出したり、授業と家庭学習がつながるような課題を出したりして、活用力を高める。

・個に応じた学習に取り組ませたり、読書の質を向上させたりするために、「学びのすすめ」や「武雄市おすすめの本リスト」を積極的に活用する。

・低・中・高学年別の「家庭学習の手びき」を家庭の学習する場に掲示して、毎日実践するように指導し、学年に応じた家庭学習の習慣化を進める。

・毎月、「生活振り返り週間」を計画的に実施して、基本的な生活習慣や学習習慣を振り返らせ、継続して指導を行っていくことで学力向上につながる基本的な習慣を身に付けさせる。

・「学力向上便り」を通じて、児童の学習の様子や読書の取り組み等を家庭に知らせ、よりよい家庭での生活・学習習慣づくりの啓発を行う。

・学校生活の中の様々な場で，自分が感じたことや考えたこと，学んだこと，また，友達や他の方々のよいところや頑張り等を振り返る機会を意図的に作ることで，言語力を高めたり，お互いを認め合ったりする気持ちを育てていく。

平成 29 年度　全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立北方小学校

1　児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5 年時	6 年時		5 年時	6 年時	
		A	B		A	B
H25 入学	59.4			63.9		
現 5 年	(0.97)			(0.98)		
H24 入学	63.1	74.0	53.0	67.1	75.0	43.0
現 6 年	(0.95)	(0.99)	(0.95)	(1.00)	(0.94)	(0.98)
H29 正答率の全国比		(0.99)	(0.92)		(0.95)	(0.93)

◎5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率（%）、下段(　　)は、県平均を 1 としての比較。

◎「Ｈ２９正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

1　意識調査

①「朝食を毎日食べている」が 98.4%と全国、県平均より大きく上回っている。

②「自分にはよいところがある」が 84.1%と全国、県平均より上回っている。

③「授業での目標の提示されている」が 93.3%と全国、県平均より上回っている。

④「1 日当たりの読書の時間」は、30 分以上が 47.7%と全国、県平均より上回っている。

⑤「学校が休みの日の 1 日当たりの勉強する時間」は、1 時間以上が 52.4%と全国、県平均より下回っている。

⑥「家で学校の授業の予習をしている」3.2%、「家で学校の授業の復習をしている」14.3%と全国、県平均ともに大きく下回っている。

⑦「地域の行事に参加する」は、84.2%と全国、県平均より 20 ポイント以上大きく上回っている。

2　国語

①A 問題では、平均正答率が 74.0%と全国や県平均と比べてほぼ同じ結果であった。

②A 問題では、「書くこと」72.2%と全国や県平均より、10 ポイント以上大きく上回っている。

③A 問題では、「読むこと」で全国や県平均より 5 ポイント程度下回っており、また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国や県平均より若干下回っていた。

④B 問題では、平均正答率 53.0%と全国と比べて 4.5 ポイント、県と比べて 3 ポイント程度下回っている。

⑤B 問題では、全国と比べて「話すこと・聞くこと」で 5 ポイント、「書くこと」で 8 ポイント下回っている。

⑥国語では、「目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで話す」「目的や意図に応じ、引用して書く」ことに課題が見られた。

3　算数

①A 問題では、平均正答率が 75.0%で全国平均と比べて 3.6 ポイント、県平均と比べて 5 ポイント下回っていた。

②Ａ問題では、全国と比べて「数と計算」で 4.4 ポイント、「量と測定」で 8.5 ポイント、「数量関係」で 3.1 ポイント下回っている。
③Ｂ問題では、平均正答率 43.0%と全国に比べて 3 ポイント、県と比べて 1 ポイント下回っていた。
④Ｂ問題では、全国と比べて「数と計算」「量と測定」「図形」で約 5 ポイント程度下回っていた。
⑤算数では、「示された条件を基に、適切な式を立てる」「示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する」「身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する」ことに課題が見られた。
⑥全体的に、文章量が多いと文章を読み取れていない児童が多い。

２　改善に向けた具体的な取組

(1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

1　西部型授業を基本とした授業実践の徹底と ICT 機器を利活用した協働学習の実践について共通理解を図ったことで、「授業での目標の提示されている」が 93.3%と全国、県平均を上回っている。しかし、「毎時間、授業のふりかえりをしている」が県平均よりも下回っていた。課題意識をもたせるため、西部型授業を今後も取り組むとともに、自己評価力を高めるため、毎時間の授業で「ふりかえり」の時間を確保するよう努める。
2　教師･児童共に学習用語を意識した授業と活用力を育成する授業の実践について共通理解を図る。また、授業への集中と関心を高める工夫と教師の授業力向上のための授業研究会を実施する。
3　算数における基礎基本の定着のため、授業時間を入れ替え、少人数・ＴＴ指導を重点的に指導する必要のある学級に振り分ける。
4　「書く能力」の向上のため各教科で条件作文を取り入れた書く活動を取り入れる。
5　算数については、学習用語を活用して説明することと、説明の際に根拠を明らかにさせることを徹底させる。
6　教師の授業力向上のため、「授業づくりのステップアップ１・２・３」を活用した授業についての教師自身による自己チェックを行う。

(2)　（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

1　朝の時間を活用した毎日の読書タイムと週 3 回の算数･国語のステップタイムについては、取り組んでいる。読書タイムでの読む本の指導をするとともに、ステップタイムでの取り組み内容について再度検討して続けていく。
2　家庭学習の習慣化のため、家庭学習の課題の出し方について効果的な方法を検討し改善するとともに、学級・学年通信等で家庭学習の進め方について連携を図る。
3　毎月１日の「ノーテレビ・ノーゲーム」について実施を継続するとともに、家読の推奨（毎月１日）をする。
4　漢字検定、計算検定を年３回実施し、合格できない児童については、昼休みに指導をし、合格をさせる。
5　長期休業中の課題プリントを作成し、取り組ませるとともに、課題の提出を徹底する。
6　Ｑ－Ｕテストの結果をもとにした学級づくりの充実を図る。